

2023年度 環境経営レポート

＜対象期間： 2023年4月～2024年3月＞



2024年5月27日 発行
株式会社ヤマモト

目 次

1.組織の概要	・ ・ ・	P1
2.対象範囲	・ ・ ・	P2
3.実施体制	・ ・ ・	P3
4.環境方針	・ ・ ・	P4
5.環境目標	・ ・ ・	P5
6.環境活動計画	・ ・ ・	P6
7.環境目標の実績	・ ・ ・	P7
8.環境活動の取組結果と評価・次年度の取組内容	・ ・ ・	P8
9.環境関連法規等の遵守状況及び違反・訴訟の有無	・ ・ ・	P10
10.代表者による評価・見直し指示書	・ ・ ・	P11

1. 組織の概要

1. 事業社名及び代表者

株式会社ヤマモト
代表取締役社長 山本 卓也

2. 所在地

本社／マツダオートザム二戸
岩手県二戸市堀野字長地31番地2
スズキアリーナにのへ
岩手県二戸市堀野字長地28番地2
マツダオートザム青葉
青森県八戸市青葉三丁目3番地12
スズキアリーナ盛岡北
岩手県滝沢市巣子91番地15

3. 事業内容

マツダ・スズキブランドの乗用車・商用車の新車販売
中古自動車販売
部品・用品などの販売
自動車整備業
レンタカー事業
損害保険代理業 等

4. 事業の規模

①店舗数	4店舗
②従業員数	47人
③年間売上高	14億6,000万円
④年間新車販売台数	419台
⑤年間中古車販売台数	206台
⑥年間整備在庫台数	13,691台
⑦延べ床面積	2,318㎡

5. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	サービス部長	
	安藤 貴仁	TEL:0195-23-8111
EA21環境推進事務局	業務部長	
	月舘 義昭	TEL:0195-23-8111

2. 対象範囲

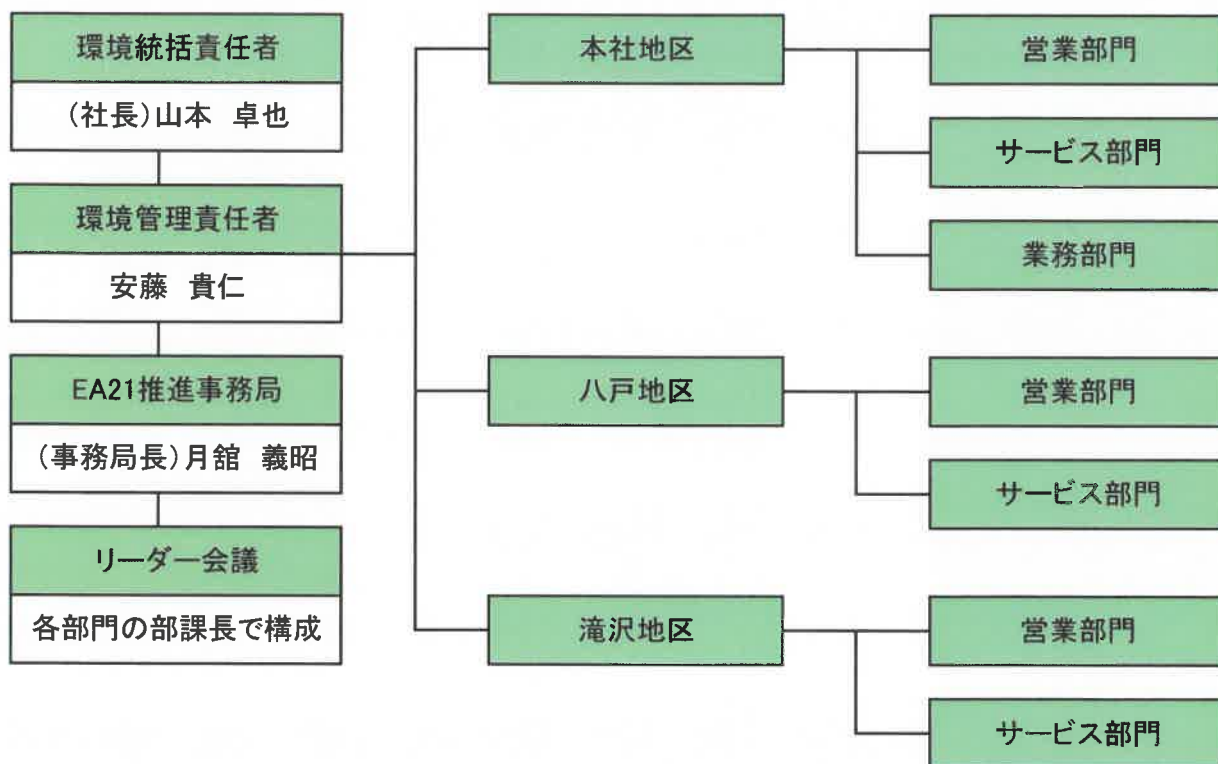
1)対象範囲

	対象範囲	店舗名	所在地	電話番号
1	◎	本社／マツダオートザム二戸	岩手県二戸市堀野字長地31番地2	0195-23-8111
2	◎	スズキアリーナにのへ	岩手県二戸市堀野字長地28番地2	0195-23-2211
3	◎	マツダオートザム青葉	青森県八戸市青葉三丁目3番地12	0178-45-5101
4	◎	スズキアリーナ盛岡北	岩手県滝沢市巣子91番地15	019-601-7501

2) 対象となる事業

マツダ・スズキブランドの乗用車・商用車の新車販売
中古自動車販売
部品・用品などの販売
自動車整備業
レンタカー事業
損害保険代理業 等

3.実施体制



担当者	役割
環境統括責任者	環境マネジメントシステム(以下EMS)の運用・維持を統括する <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営における課題とチャンス の明確化 ・ 環境経営方針を策定し全従業員に周知する ・ 実施体制を構築し必要な経営資源(人材・設備・資金)を準備する ・ 全体的な取組状況を評価し、見直し、必要な指示をする
環境管理責任者	実務上の責任者として、全社の環境取り組みを推進する (※環境統括責任者は、環境活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲) <ul style="list-style-type: none"> ・ EMSの構築 ・ EA21推進事務局長の任命 ・ 環境目標、実施体制、環境活動計画の承認 ・ 環境活動の取組結果を承認 ・ 環境活動の取組結果を環境統括責任者へ報告 ・ 環境活動レポートの作成
EA21推進事務局	環境管理責任者をサポートし、全社の環境取組を推進する <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境目標、実施体制、環境活動計画の設定 ・ 環境活動の取組指導・支援 ・ 環境活動の取組結果の取り纏め、環境管理責任者へ報告
リーダー会議 各部門の部課長で構成	全社の環境取り組みを推進する <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当部門の責任者として、環境取組の推進・管理 ・ 社員への教育、訓練の実施
社員	各部門長の指示のもと環境活動計画を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・ 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 ・ 環境システムについて問題点、改善策を事務局に報告

4. 環境経営方針

<基本理念>

株式会社 ヤマトは、自動車販売・自動車整備などの全ての事業活動において、積極的に環境負荷の継続的な低減に努め、持続的に発展できる豊かな循環型社会づくりに貢献します。

<行動指針>

1. 二酸化炭素排出量の削減に努めます。
2. 環境に関する法規制を遵守します。
3. 限りある資源を大切にするため、省資源・省エネルギーに努めます。
4. 使用済み自動車の適正処理、リサイクルを推進します。
5. 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・再使用・再利用活動を推進します。
6. 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
7. エコカーの拡販、エコ整備の普及を通じ、環境への負荷軽減に貢献します。
8. グリーン商品の購入、有害化学物質の適正な管理に努めます。
9. 全従業員にこの環境経営方針を周知徹底するとともに、環境経営レポートを作成し、公表します。

2011年 11月 1日 制定

2012年 11月 1日 改定

2021年 9月 13日 改定

2024年 5月 1日 改定

株式会社ヤマト

代表取締役 山本 卓也

5. 環境目標

1. (株)ヤマモトの取組方針

- 事業活動で生じる環境負荷の中で、特に影響の大きい以下の項目について、削減に取り組む。
 - ・電力使用量 ・自動車燃料使用量 ・一般廃棄物排出量 ・産業廃棄物排出量 ・水使用量
 - ・化学物質使用量
- 環境に優しい循環型社会に貢献するため、以下の項目に取り組む。
 - ・エコ整備の拡大(エコオイル、低燃費タイヤ) ・エコカー販売の拡大

2. (株)ヤマモトの環境目標

EA21負荷の自己チェック コア指標		基準年度		年度目標					
		2021年		2022年		2023年		2024年	
		実績		基準年度比	目標値	基準年度比	目標値	基準年度比	目標値
二酸化炭素 排出量	電力	CO2排出量 (kg-CO2)	108,776	99%	107,688	98%	106,600	97%	105,512
		使用電力量 (kwh)	207,984	99%	205,904	98%	203,824	97%	201,744
	化石燃料	CO2排出量 (kg-CO2)	139,147	99%	137,756	98%	136,364	97%	134,973
		ガソリン(ℓ)	20,548	99%	20,343	98%	20,137	97%	19,932
		軽油(ℓ)	13,921	99%	13,782	98%	13,643	97%	13,504
		灯油(ℓ)	19,631	99%	19,435	98%	19,238	97%	19,042
		液化石油ガス/LPG(kg)	2,196	99%	2,174	98%	2,152	97%	2,130
排出量合計 (kg-CO2)	247,923	99%	245,443	98%	242,964	97%	240,485		
廃棄物 排出量	一般廃棄物	排出量(kg)	5,856	99%	5,798	98%	5,739	97%	5,681
	産業廃棄物	排出量(kg)	44,811	99%	44,363	98%	43,915	97%	43,467
	排出量合計(kg)	50,667	99%	50,161	98%	49,654	97%	49,147	
排水量	水使用量	排出量(m ³)	1,093	99%	1,082	98%	1,071	97%	1,060
化学物質 削減量	使用量削減	使用量(kg)	133	100%	133	100%	133	100%	133
環境配慮製 品 販売促進	エコオイル	仕入量(ℓ)	15,200	102%	15,504	104%	15,808	106%	16,112
	エコタイヤ	仕入量(本)	917	102%	935	104%	954	106%	972
	エコカー販売	販売台数(台)	140	102%	143	104%	146	106%	148

環境責任者 安藤 貴仁

(注)購入電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力の2019年度実排出係数0.523kg-CO2/kWhを使用

6. 環境活動計画

1. 二酸化炭素排出量の削減

1) 電力使用量の削減

- 照明／空調機器の定期清掃
- 退社時の照明/空調/OA電源停止
- 冷暖房の温度設定管理
- クールビズ/ウォームビズの徹底
- 屋外照明の点灯/消灯時間設定を毎月見直し

2) ガソリン使用量の削減

- 納車引取の削減(来店入庫の促進)
- 代車の満タン貸し・満タン返し徹底
- エコドライブの啓発

2. 廃棄物排出量の削減

- 機密文書リサイクル便の積極活用
- 発泡スチロール/食品トレイの分別
- 両面コピー等による紙使用量の削減
- 廃バンパーリサイクルの推進
- 廃バッテリーリサイクルの推進

3. 水使用量の削減

- 給水栓に節水啓発の掲示設置
- 水流し音発生器の設置、管理

4. 化学物質使用量の削減

- 低VOC塗料・シンナーへの切替

5. その他の取組

- エコ整備(エコオイル/低燃費タイヤ使用)の推進
- エコカーの提案
- 街路歩道の清掃、除雪

定期清掃



空調機器の清掃

照明器具の清掃

エコ整備の推進



低燃費タイヤ・エコオイルの推進

エコカーの販売



マツダ クリーン
ディーゼル搭載車

スズキハイブリッド
搭載車

地域の環境美化



地元振興会でのプランター設置活動

環境責任者 安藤 貴仁

7. 環境目標の実績

令和5年度

2023年4月～2024年3月運用期間の実績

■環境負荷低減項目 * 目標達成率% = 目標 ÷ 実績 × 100

項目	単位	目標	前年実績	本年実績	前年比	目標達成率	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	242,964	230,961	213,046	92.2%	114.0%	○
電力使用量	kwh	203,824	197,520	172,049	87.1%	118.5%	○
ガソリン使用量	ℓ	20,137	20,581	17,322	84.2%	116.3%	○
軽油使用量	ℓ	13,643	12,148	14,506	119.4%	94.1%	△
灯油使用量	ℓ	19,238	19,346	18,111	93.6%	106.2%	○
液化石油ガス使用量	kg	2,152	132	119	90.2%	1808.4%	○
一般廃棄物排出量	kg	5,739	6,644	6,032	90.8%	95.1%	○
産業廃棄物排出量	kg	43,915	43,047	40,310	93.6%	108.9%	○
水使用量	m ³	1,071	1,202	1,023	85.1%	104.7%	○
化学物質使用量	kg	133	90	83	92.2%	160.2%	○

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、東北電力の2019年度実排出係数0.523kg-CO₂/kWhを使用。

[評価の基準]

○: 達成(95%以上)

△: 不十分(90%以上～95%未満)

×: 未達成(90%未満)

■環境配慮資材拡大項目 * 目標達成率% = 実績 ÷ 目標 × 100

項目	単位	目標	前年実績	本年実績	前年比	目標達成率	評価
エコオイル購入量	ℓ	15,808	15,600	15,230	97.6%	96.3%	○
低燃費タイヤ購入量	本	954	1,125	1,098	97.6%	115.1%	○
エコカー販売台数	台	146	187	190	101.6%	130.1%	○

[評価の基準]

○: 達成(95%以上)

△: 不十分(90%以上～95%未満)

×: 未達成(90%未満)

8. 環境活動の取組結果と評価、次年度の取組内容

1. 二酸化炭素排出量の削減

1) 電力使用量の削減

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の2.0%削減目標に対し、17.0%削減となった。

②要因

令和5年8月に本社二戸に太陽光発電設備を導入した事により、基準年度2%削減目標に対し二戸で25.7%、八戸で11.6%の削減、滝沢で2.9%の増加となったが、全体で17.0%と大幅に削減。軽油使用量若干増加したが、ガソリン、灯油、ガスの使用量が減少した事により、二酸化炭素総排出量についても2%の削減目標に対し14.0%の削減となった。

③次年度の取組

窓等の開閉調節にてエアコンの稼働時間を極力減らし、稼働時は冷房28度、暖房20度に設定。クールビズ・ウオームビズの徹底、照明器具のこまめな電源オフ等、日々の取組を継続していく。

2) ガソリン使用量の削減

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の2.0%削減目標に対し、15.6%削減。目標達成率116.3%となった。

②要因

例年通り代車の満タン貸出、満タン返却の徹底等取組んできた事と、試乗件数が前年より130件程少なかった事等により、使用量が減少した。

③次年度の取組

上記の取り組みを今後も継続していく。

3) 軽油使用量の削減

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の2.0%削減目標に対し、4.2%増加した。

②要因

除雪作業の為のボブキャット稼働時間の影響により滝沢で目標達成率68.7%、二戸94.0%、八戸116.5%、全体では94.0%という結果となった。前年対比の使用量は、ガソリン3,259ℓ減少、軽油2,358ℓ増加となったが、自動車燃料全体の使用量は削減できている。

③次年度の取組

日々の取組を今後も継続していき使用量の削減に努める。

2. 廃棄物排出量の削減

1) 一般廃棄物の削減

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の2.0%削減目標に対し3.0%増加した。

②要因

旧カタログ、チラシ等が廃棄処分となったが、目標達成率は、95.1%と概ね良好。

③次年度の取組

日々の取組を今後も継続していく。

2) 産業廃棄物の削減

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の2.0%削減目標に対し10.0%削減した。

②要因

定期的な回収ではなく、ある程度の量が溜まったら回収を依頼している為、年度によって排出量が多くなったり、少なくなったりする。

③次年度の取組

今後も下廻り防錆塗装等の提案に力を入れ、金属部品を長持ちさせる事で、顧客満足度の向上にも繋げていく。

3. 水使用量の削減

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の2.0%削減目標に対し6.4%減少した。

②要因

基準年度(2021年度)より車両販売台数、整備在庫台数とも増加したが、納車洗車時等のこまめな止水と節水により使用量減少。

③次年度の取組

今後もこまめな止水及び節水に取り組んでいく。

4. エコオイル使用量の拡大

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の4.0%増加目標に対し0.2%増加した。

②要因

観光など車での移動、利用が増加してきたが、提案弱く0.2%の微増となった。

③次年度の取組

今後もメンテナンスパックの提案を新車販売時と車検時に提案していく。

5. 低燃費タイヤ販売量の拡大

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の4.0%増加目標に対し19.7%増加した。

②要因

エコオイル同様、観光等、車での移動も増えてきた事により低燃費タイヤの販売量も増加した。

③次年度の取組

今後も、4月、11月のタイヤ交換時期及び車検点検時に低燃費タイヤの提案を強化継続していく。

6. エコカー販売量の拡大

①取組結果

基準年度(2021年度)実績の4.0%増加目標に対し35.7%増加した。

②要因

新型コロナの5類感染症移行により、行動制限も緩和され、それに伴い移動手段としての車選びについても環境性能や低燃費に対する意識の高まりから、エコカーの販売量も増加した。

③次年度の取組

今後も、新しい基準を満たしているエコカーの販売に力を入れていく。

9. 環境関連法規等の遵守状況及び違反・訴訟の有無

1. 環境関連法規

環境関連法規	要求事項	評価
廃棄物処理法	・廃棄物の適正処理	遵守
自動車リサイクル法	・使用済自動車の適正処理	遵守
消防法	・特定施設の届出(少量危険物貯蔵取扱)	遵守(届出済)
PRTR法	・特定化学物質の排出量/移動量の把握	遵守(届出対象外)
水質汚濁防止法	・特定施設の届出(自動式車両洗浄施設)	遵守(届出対象外)
下水道法		遵守
騒音規制法	・特定施設の届出(コンプレッサー、塗装ブース)	遵守(届出済)
振動規制法	・特定施設の届出(コンプレッサー、塗装ブース)	遵守(届出済)
フロン排出抑制法	・管理第1種特定製品の簡易点検	遵守

2. 違反・訴訟の有無

環境関連法規の違反はなく、関係機関からの指摘も受けておりません。

同様に訴訟等についても、1件もありませんでした。

また、環境苦情等も、ありませんでした。

10.代表者による評価・見直し指示書(2023年度)

作成:2024年5月20日

1、評価項目

見直しに必要な情報	内 容	備考
①環境関連法の遵守状況	環境関連法の違反はありません。	環境法令
②環境目標の達成状況及び環境活動計画の実施状況、その評価結果	令和5年度は、8月に本社整備工場に太陽光パネルを設置した事により二戸は、電力使用量が大幅に削減されました。全体での他の項目については、軽油使用量若干増加したが、ガソリン、灯油、ガスの使用量減少した事により、二酸化炭素総排出量の目標も達成しました。昨年は、総じて良好な結果となりましたので、今年度も引き続き環境負荷軽減を意識して取り組んでいきます。	目標達成状況
③問題点の是正処置及び予防処置の結果	是正処置報告書を作成しました。	問題点の是正処置及び予防処置の結果
④外部からの苦情等の受付結果	苦情は有りません。	苦情・要望受付シート
⑤組織に影響する法規制動向	特にありません。	
⑥取引先からの「グリーン調達」情報	新型コロナの5類感染症移行による行動制限の緩和に伴い、移動手段としての車選びも低燃費に対する意識の高まりから、エコタイヤ、エコカーの販売量が増加した。	
⑦エコアクション環境改善提案	引き続き、取引先と共に環境問題を良い方向へ進めていくよう取り組んでいきます。	
⑧その他		

上記のとおり報告します。 2024年 5月 20日

環境管理責任者 安藤 貴仁

2、代表者による見直し等の指示

見直し項目	評価	改善及び指示
1 環境経営方針	現状に合わせて変更の必要なし	継続して現方針を遂行願います。
2 環境経営目標及び環境経営計画	軽油使用量、一般廃棄物排出量が、若干増加。	軽油使用量は、除雪作業用重機での使用が多く不可避ではあるが、日々の取組を継続する。
3 実施体制	現状に合わせて変更の必要なし	特になし
4 その他	なし	なし
5 全体評価	<p>昨年8月、本社二戸に太陽光パネルを設置し、経過7ヶ月間ではありましたが、全体での電力使用量、特に二戸では大幅な削減に繋がりました。取扱車両台数の増減や天候等に影響される項目については、目標未達も仕方のない面がありますが、今後も環境活動に対する意識を持ちながら日常の業務を遂行するよう社内周知のうえ日々の改善を図るよう指示します。</p>	

上記のとおり指示します。 2024年 5月 24日

代表者 山本 卓也

※1、見直しは、少なくとも毎年1回実施し、その結果を記録すること

※2、環境管理責任者は、評価項目を記入し、代表者に提出する。

※3、代表者は、見直し等を指示する。